

黄庭経

永和十二年
(356年)

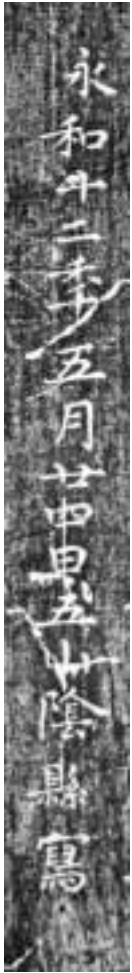
魏晉唐小楷 ②

木 雞

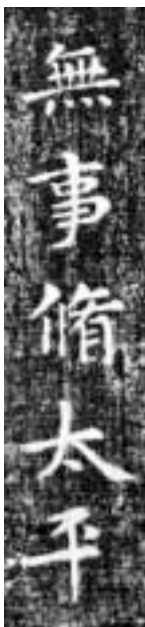
木雞室

伊藤 滋

黄庭経・選字・停雲館本



図① 黄庭経巻末部分



図②-2 「停雲館本・黄庭経」



図②-1 「心太平本・黄庭経」

黄庭経は、道教という中国古来の宗教の教典の一つである。この黄庭経を書聖・王羲之が壮年の頃に楷書体で書写した墨跡が唐時代には伝えられ、王羲之楷書の名作と称されていた。巻末には永和十二年書写の題記がある。(図①) 現在は墨跡本は伝来せず、宋、明時代(12世紀から17世紀)に制作された法帖拓本で伝えられている。図版の黄庭経は、明時代の偉大な書家・文徵明が十数年かけて制作した「停雲館法帖」全12冊の巻一の巻頭に収録されている。十行目の中央部分の文字が不鮮明がある。この部分の特徴を「水痕」(もとの墨跡本が虫食いにより破損した痕であろう。)と称している。黄庭経の大部分の刻本はこの特徴を持ったものであり、「水痕本黄庭経」と呼ばれる系統の拓本である。それ以外に「心太平本黄庭経」と称する系統がある。文章、書風もほぼ同じであるが、心太平本は、水痕がなく(図③)、また十九行目の末が「無事心太平」である。(図②-1) (水痕本は、「無事脩太平」につくる。図②-2) 隋唐の字形が整った楷書とはやや異なり、小字であるが、拡大してみるとたいそう穏やかであり、またのびやかでもある。

次号は、「孝女曹娥碑」です。この欄に関するご批評、ご意見、ご希望、ご質問などをお聞かせください。私宛に直接メールで、また編集部宛にお送りいただければ幸いです。

伊藤 滋 メールアドレス mokke@galaxy.ocn.ne.jp

黃庭經

上有黃庭下有關元前有幽關後有命門
虛吸虛外出入丹田審能行之可長存
黃庭中人衣朱衣關門壯蓋蓋而扉
幽關俠之高魏丹田之中精氣微玉池
清水上其肥靈根堅志不衰中池有士
服赤朱橫下三寸神所居中外相距重
閉之神爐之中務脩治玄靡氣管受精
符急固子精以自持宅中有士常衣絳
子能見之可不病橫理長尺約其上子
能守之可無恙呼喻虛間以自償保守
完堅身受慶方寸之中謹蓋藏精神還
歸老復壯俠以幽關流下竟養子王樹
不可杖至道不煩不旁迂

以幽關流下竟養子王樹不可杖至道不煩不旁迂

書道芸術院 平成の書(2010)



「寒花晩節」

恩地春洋

財団法人書道芸術院
理事長

佐久市立近代美術館蔵

寒花晩節

「書は、良かれ悪しかれ、生きざまの記録である。」
戦後、ブラック校舎の高知師範で翠軒流を教わったのが師川崎梅村(白雲)先生との出会いであり、私の人生を決定した一瞬だった。

師に随って岡田米峰、小島白洲と私の三人が大阪に出たのは、山の小学校に奉職して二年後だった。同期二人は故人となった。私も大阪でもう六〇年になる。東京の東神田で忙しくなって二十年余り、院や毎日展の仕事で大阪・東京の日帰りなど再三のことで往復七、八時間の移動時間を要したが、健康で何とか勤めあげることが出来た。

香川峰雲先生に認められたこと、歴代の会長さんに仕え、色々な事を教わったこと、特に最も接触の強かった種谷扇舟先生は組織の名人、むずかしい総合団体(13総局支局)をまとめあげた。又、先生の作品は、自分の生活や身のまわりから素材を選ばれて発表されていたこと。心から共鳴している。

人生八十年、浅学非才、書人として逃げるつもりはないが、「今、何をすれば一番よいか」と考えることにしている。

院の理事長として今何をすべきか
特に、今後の院の発展のための最良の方法は？

川崎白雲の門人として何をすればよいか？

その後で、自分の書の、人間の生き方としての書を少しでも探ってみたいと思う。

「新は深なり」ともいう。人間派とか人生派とでもいうべき方向になるうか？

健康な時間が少しでも長くほしいのだが……。

(H 22・2・27)

書のひろば

理事長 恩地春洋

盛りあがった表彰式

―第18回国際高校生選抜書展―

「とめ・はね」の主役、朝倉あきさんが出席し、田辺外務省関西担当大使などを迎え、主催の北村正任毎日書道会理事長はじめ役員が揃い、第18回国際高校生選抜書展の表彰式は、例年にも増して盛りあがりを見せた。恒例の文部科学大臣賞、外務大臣賞受賞者らの後、書のパフォーマンスマスも、本年度全国優勝校、埼玉県立松山女子高、昨年度優勝の福岡県立青豊高と東西の雄によって華麗に実施されて喝采を浴びた。愛される「書の甲子園」が漸く社会に受け入れられた瞬間であった。

書という伝統文化を守り、後世に伝えるためには、子どもや若者の参加は不可欠のこと。

◇提案者 小野富次さん

大阪・名古屋などで準備会
伝統文化が粗末に扱われていることを憂い、書という文化・芸術を後世に伝えよう。自国の言葉や国字を大切にしよう、漢字文化圏は元より、欧米各国も視野に入れて構想を固めた。



左から、朝倉あき、貞政少登、北村正任、加藤達成、恩地春洋

- 1、一年に一回、書展を開く。
- 2、会場は、大阪市立美術館。
- 3、対象は、高校生とし、学校教育の一環として扱う。
毎日展の下部組織とはしない。
公正な審査方法により、厳正公平に審査する。
- 4、海外からの出品も認める。
- 5、出品料は、無料とする。

ちょうど、毎日新聞大阪本社一一五年、関西空港開港の年に当たった。
大阪での打合せに集った若手の書家は、「資金で問題があるのなら、手弁当でもやろう」と意気盛んであった。
野崎幽谷、小森秀雲、小伏竹村、上羅柴山、菅野清峯、恩地春洋ら

◇経過

- 1、戸田提山、種谷扇舟理事の活躍で実施と決定。(反対もあった由)
- 2、林俊三さんは最小限の費用でやり遂げた。
- 3、一回展には、シンガポールからも出品あり、陳聲桂会長夫妻が来阪、海外作品も、感謝状でなく、審査してほしいと要望があった。
- 4、三回展頃から、理事交替で審査に当たり、漸く出品増加、最初は塾単位の出品に助けられた。
海外では、中国は勿論だが、特に南米ブラジルの作品がポルトガル語で書きながら、造形性があり、成長のようすが伺えて楽しかった。
- 5、本展の入賞、入選証明書が大学の推薦入試に役立っていると評判になったことで、学校のクラブ活動作品などが増加、海外作品も外務大臣賞が出たこと。などで関心が高まり特に漢字作品は技術的にも向上した。
10回展を機に本来の目的「学校教育の一環」として、塾の団体賞を廃止したり、実状に合った改正や修正をした。留学生受入校は、日本文化として書を指導する処が増え、日本人の中に加えても遜色のない作品も出てくるようになった。
揮毫会は、上位入賞が毎年書いているが、外に、シヨリ的な要素の強い「書のパフォーマンス」と名付けて全国に拡大しつつある。
選抜野球プラカードの揮毫も高校生。



福岡・青豊高等学校書道部の揮毫

第9回国際書法交流奈良大展

出品者

恩地春洋 小伏竹村 香川倫子
村野大仙 辻元大雲 大野祥雲
浜谷芳仙 下谷洋子 小竹石雲
石井明子 飯高和子 小野寺逢仙
鳥山岳風 砂本杏花 小伏小扇
小林琴水 (本院関係)

第45回高野山競書大会

運営委員 小伏小扇 種谷萬城
当番審査 恩地春洋 大野祥雲
辻元大雲 小林琴水
審査助手 前田龍雲 川村美泉
下谷洋子 尾形澄神
稲垣小燕 (本院関係)
訪中団幹部 小伏小扇

前衛書 (六)

千葉 蒼 玄

書は芸術と銘打ってはいいるが、絵画のように販売されることはまれである。中国に行くときよく掛け軸を売っているものを見るが民芸品の領域を出ていない。

絵画はその販売ルートが確立され、画廊という商売が成り立っている。画廊はあるが書廊という言葉は聞かない。作品を書く場合、値段などということを考えて書いているわけではないが、



オランダ アートフェアー 出品作“アキラ” 千葉蒼玄書

では日本独自の文化というより、絵画には無い独自の芸術作品として認められつつある。自分の作品にプライドを持つこと、これも新しい書を創る場合には必要なことなのだろう。

分の分身としての「作印」にもっと価値を見いだすようにしなければいけないのではないか。掲載の作品はオランダのアートフェアに出品した作品である。書の作品は海外

作品の価値観を何かに転化してみたいと思うことはないだろうか。私の作品も、ある縁で、海外で販売する機会を得た。そのうちの何点かが販売されどこかの家で、絵画と同じように展示されていることを思うと感無量のものがある。

ゴッホは、生前1つの絵しか売れなかった。モディリアーニもまた売れないまま貧困の生活であった。それでも自分の作品にはプライドをもっていたいと思う。書はどうしても「もらうもの」「あげるもの」という感がぬぐえない。我々も自分の分身として

21世紀の書

—私の主張—

漢字 (六)

前田 龍 雲

さて、現代に通じる漢字書について、ここ最近の考えを述べていこうと思います。

あくまでも、漢字書ということなので、まずは、やはり読めなければならぬと思います。そしてどんな意味があるのか理解してもらい必要があるのではないかと思います。これは現代日本語を書く場合でも、漢詩を書く場合でも同じことが言えるのではないのでしょうか。しかし、漢字書という枠(箍)を外し、芸術としての書という見方をした場合、漢字書や前衛書・かな書や漢字仮名交じり書(近代・現代文)などのジャンル分けはなくなり、読めなくてもよい作品があっても良いと思います。

最近、私は少ない字数の作品を中心に発表しています。なるべくシンプルに書きたいが故の選択です。ご存じの通り漢字は表意文字です。表意文字では、文字の一つ一つに意味があるため、漢字一文字を見るだけでも伝えたいことが理解できるというわけです。簡潔なものほど奥が深く難しいですが、そこに面白さが潜んでいます。そして、文字の持つ意味と表現が合致していると、より作品に説得力が増してくるものだと確信しています。文字や文章の持つ意味内容を咀嚼し、感情移入出来ればと常に思っています。

感情移入のなされていない作品は人の目を引き付けることが出来ません。ただ単に奇を衒ったものや力強いだけのものは深遠さがなく、下品に映ります。外柔内剛の線質で率意の書を目標に、日々研鑽しなければならぬと思っています。凡庸な生活をしているとなかなか素材が浮かんできません。なるべく様々なことに目を向け、広い視野を持っていたいと思います。



180×60cm

第二回ここから…展(二〇〇九年) 出品

前田龍雲書

第41回 現代女流書 100 人展

併催＝現代女流書新進作家展（第61回毎日書道展会員賞受賞作家）

会期＝2010年2月4日（木）→11日（木・祝）

* 10時→19時・最終日は17時閉場* ご入場は閉場の各30分前まで

会場＝渋谷・東急本店 7階 催物場/ 8階 工芸ギャラリー

主催＝毎日新聞社 後援＝(財)毎日書道会

〈駆けだせ驢馬（三好達治）〉

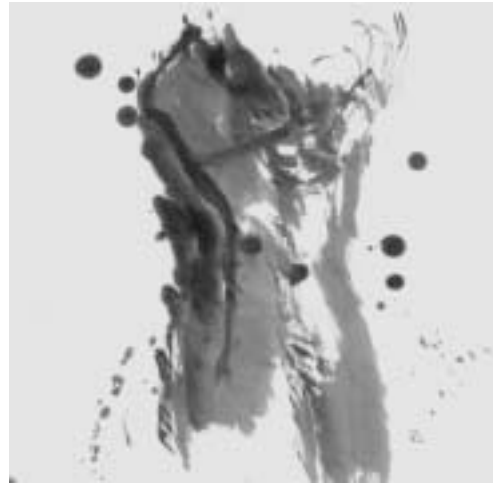
長井四枝



135×105cm

〈受〉

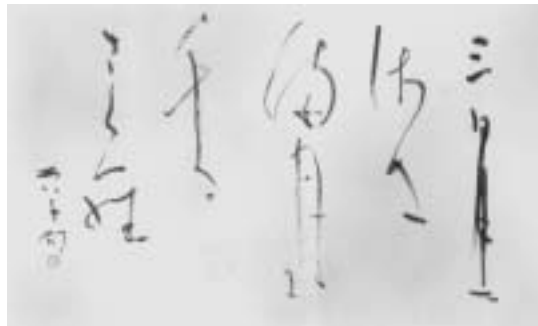
香川倫子



69×70cm

〈特別出品〉

黒川江偉子



〈三日月に咲き満月に散る桜（樋口あい子）〉

60×98cm

下谷洋子



〈山路こそ雪のした水とけざらめ…（西行）〉 62×138cm

〈芽楓に梵鐘響く古刹かな（自作）〉

白石和楓



173×81cm

〈翔〉



岩崎香葉

181×91cm

〈虎耳草（ゆきのした）〉



新井京華

185.5×69cm

〈心眼〉

塚越紅苑



137.5×69cm

〈寶〉

小伏小扇



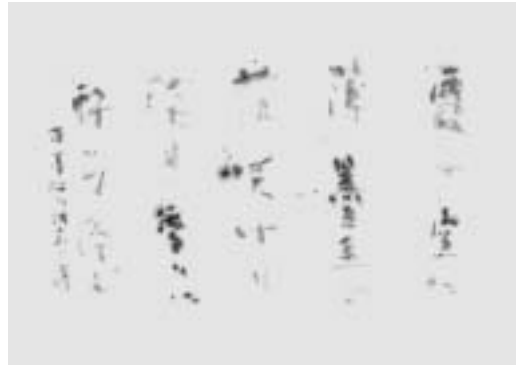
135.5×115cm

〈寒椿落ちて紅白寄り添ひぬ（森岡彩子）〉
町山美扇



171.5×79.5cm

上村棠芳



〈霞の空に薄墨色の花…（自作）〉

97.5×133cm

〈望〉



上妻華竹

135×105.5cm

新進作家展

〈アルデバラン〉



工藤永翠

181×60.5cm

〈春到梅邊第一風〉



半田藤扇

176×83cm

〔解説〕祭姪文稿は、全ての点画を疎かにすることなく、渾身の情を込めて巻首から巻末まで書き抜いている。明快で厚味のある線に迸る墨気は、千二百年を経た今日でも見事で、人の心を強く動かす書である。王

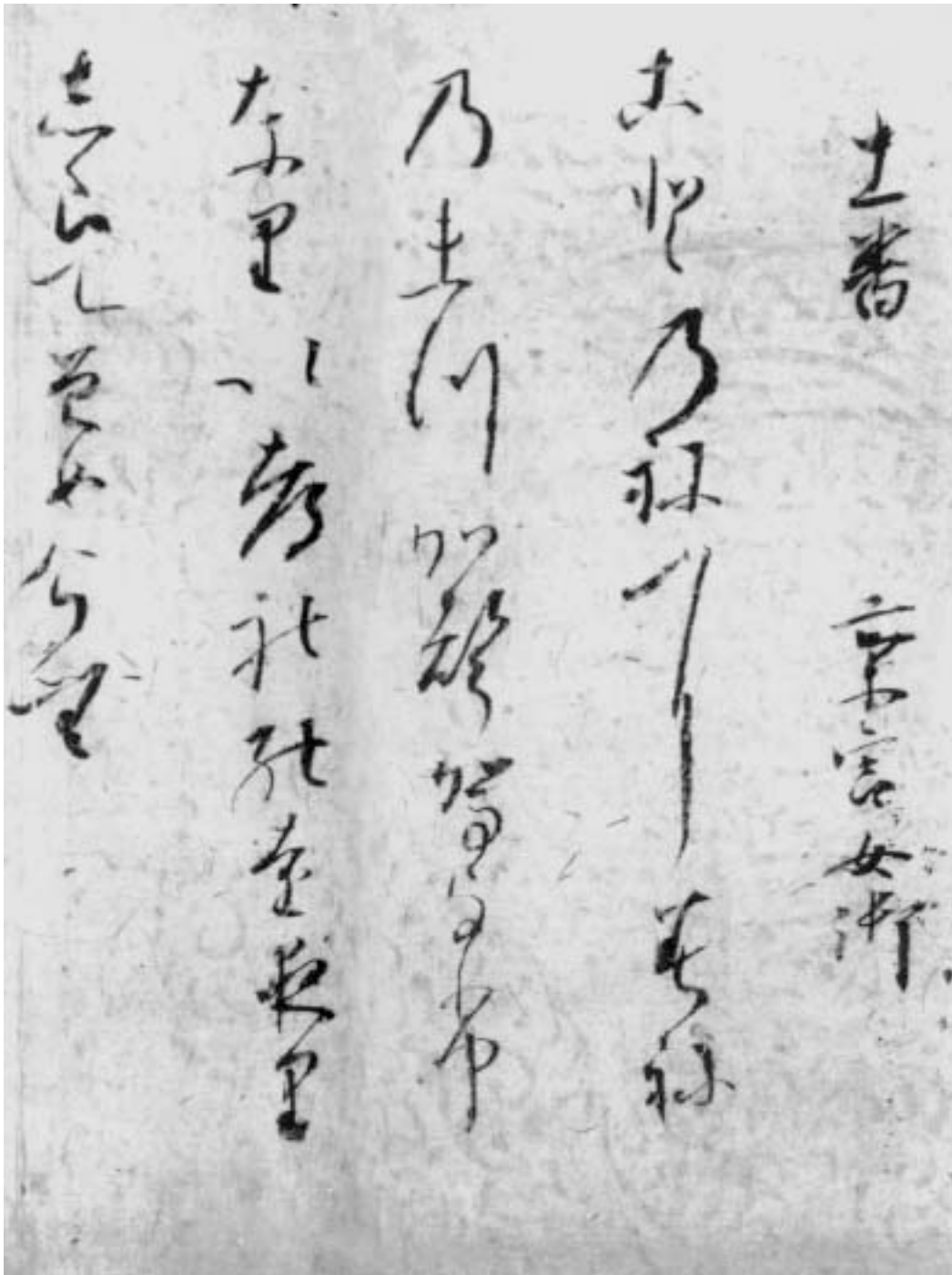
羲之の古法を体で受け止め、側筆による用筆が冴えて
いるから、無限の時空へ誘う変化の美の名品といえよ
(編集部)

用紙 半紙普通判
注 左記の法帖の中から
何文字臨書してもよい。
(掲載部分以外は不可)

※落款を必ず入れる
署名、
もしくは〇〇臨
(押印のみ可)



豐。稱兵犯順。爾父竭誠。常／山作郡。余時受命。亦在平／原。仁兒愛我。伸爾傳言。爾既／歸止。爰開土門。土門既開。先威／



※上記の掲載歌一首以上を書く
用紙・半紙普通判(料紙可)

※落款を必ず入れる。
○○臨(押印のみも可)

〈よみ〉

十一番 斎宮女御

古登乃弥耳美祢

乃末川加声駕与布

奈里 都礼能遠夜里

志良部曾め介無

〈解説〉

十五番歌合の料紙は色彩も豊かな舶載の唐紙や蠟箋で、装丁は卷子本。現在では八首を一巻として前田育徳会に所蔵され、他に六首が断簡となって伝えられているのみである。

連綿の全盛時に、筆者は、一字一字の深い味わいの中に情感の妙を凝結させようとしたと思われる。

(編集部)

漢字規定 初段以上 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

辻元大雲 選書



雨洗青山浄 よみ(雨青山洗いて浄し)

書体||自由

習い方解説 (六)

辻元大雲

雨洗青山浄
(雨青山洗いて浄し) 姚合

春たけなわの気分の語です。五字句を草書表現としてみました。やや細身の線で軽やかなリズムで流れよくと心がけています。連綿は入っておりませんが運筆のリズムにより自然に連綿するのもよいかと思えます。上級者は色々な表現が可能です。書体の違いはもちろん、書風の変化は自在に出れます。参考例や先生の手本に頼ってばかりでは本当の意味での上達は望めません。自らの研究と工夫何より食わず嫌いにならないで何でも積極的に主体的に取り組む姿勢を持って勉強して下さい。

漢字規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判

小伏小扇選書



土積成山

よみ(土積もれば山と成る)

書体||楷書

習い方解説 (六)

小伏小扇

土積成山

(土積もれば山と成る)

「説苑」建本

寸陰を惜しんで学問すべきこと。

「土」土は画数が少いので他の字に負けないよう強くのびやかに。

「積」横画を整えて書く。

「成」戈法が肝心。

「山」土と呼応するように堂々と。

かな規定 初段以上 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙普通判(料紙可)

石井明子選書

習い方解説 (六)

石井明子

雪どけの中にしだるる柳かな

(芥川龍之介)



よみ方 雪どけ(希)のな(念)か(可)に(耳)しだ(多)るる(ノ)柳か(可)な(那) 龍之介句

創作

龍之介(一八九二～一九二七)は、東大在学中に小説を書き始め、「羅生門」、「鼻」等で才能を認められ、夏目漱石の門下となりました。その影響もあり、知的な俳句を多く作りました。俳号は我鬼です。

これを北海道旭川での句と知ると一層、春の訪れに感動する思いが伝ってきます。

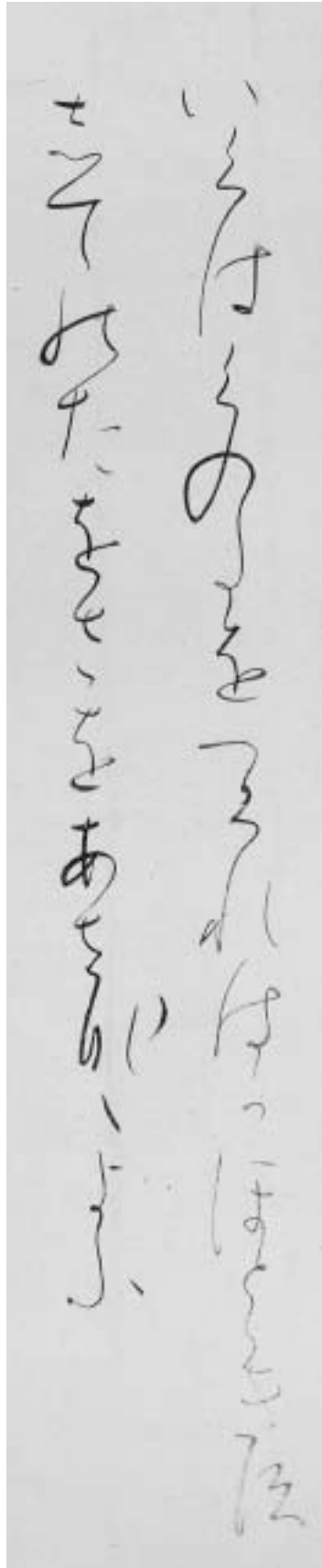
俳句を書くときは、言葉の省略の美を視覚に持ち込みたいと意識します。また、短さ故の物足りなさに陥らないようにとも考えます。情景が浮ぶ出来映えにしたいとも望みます。考えすぎて、ごてごてにならないよう、捨てる努力をしたいものです。

二行めに、縦長の字を続けるという実験をしました。少しの変化を大切に思ってください。

かな規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 半紙タテ1½ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真のうたを全臨、または部分(二字以上の連綿)を臨書する。

高野切第三種
(掲載写真縮小93%)



よみ方 いく(久)ばく(久)のた(多)をつく(久)ればか(可)ほとゝぎす(須)

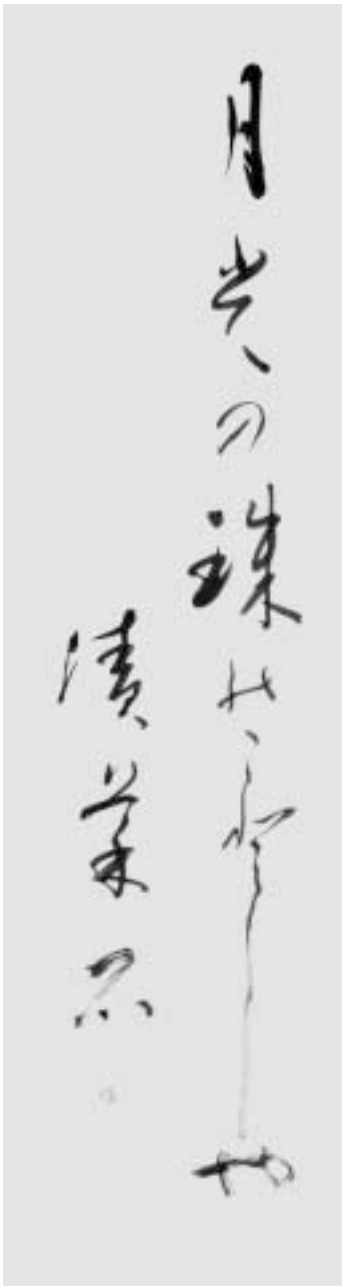
し(志)での(能)たをさをあさな(那)くよぶ

習い方解説 (三)

平川峰子

かな条幅規定 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切 (料紙可)

平川峰子 選書



月光の珠のことしや漬菜石
(能村登四郎)

かな作品制作の場合、変体仮名に置き換える文字が限定されると思う。地名や固有名詞などは意味が伝わりにくくなりますのでなるべく避けたい。俳句となると字数が少ない分、作品全体の構成上、効果的と思える文字に限られる。置き換える文字、大小、字間の微妙な余白、墨量などに変化をつけて制作してください。

よみ方 月光の珠の(能)ごと(登)しや漬菜石

創作

*たて形式に限る

漢字条幅規定 初段以上 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

広瀬舟雲 選書



玉容寂寞淚欄干 梨花一枝春帶雨
(玉容寂寞、淚欄干、梨花一枝春・雨を帯ぶ)

書体||自由

習い方解説 (六)

広瀬舟雲

最終回は再び「長恨歌」中の一節です。「玉のように美しい顔はいかにも寂しそうに涙が流れ落ち、一枝の梨花が春の雨にぬれていくようだった。」これは、楊貴妃を形容した一節ですが、文意から、鍾繇の書風を応用し、華やかさよりもむしろ、ぼつぼつとした素朴な感じで、品位と叙情を醸し出してみました。

漢字条幅規定 秀級以下 【四月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

横谷尚恵 選書



春宵一刻價千金 花有清香月有陰
(春宵一刻價千金 花に清香あり月に陰あり)

書体||自由

習い方解説 (六)

横谷尚恵

春宵一刻價千金「現実そのものが悟りの妙景をいう。」と書いてあります。得難い一刻を無心に書くことに専念してみましよう。

私のお墓の前で泣かないでください
そこに私はいません死んでたんですか
いません千の風に千の風にならなくて
あの大きな空を吹きわたっています
千の風にならなくてよう 舟錦か

用紙はがきの大きさ、白色のもの、黒インク使用のこと

書体は自由

習い方解説 (六)

川島舟錦

行頭、行尾を揃えると見た目がきれいです。力の入れ方、速度などによって線はいろいろ変化します。リズムをつかんで書いてみましょう。

「生きるということは、歳を重ねることだな。歳を重ねるといことは、死者を送ることだな。」私たち生者とは、過去に送り出した無数の死者たちに囲まれて、日々を生きていると言ってよい。だがその生者にしても、少しずつ歳老いては少しずつ死者に近づいてゆく。そうして最後には、生者自身が死者となつて天国に送り出される。そのあたりの心境を、あの良寛も吟じているではないか。

ちるさくら

のこるさくらも

ちるさくら

(新井満著『千の風になつて』講談社)より

※落款を入れ忘れないようにしてください。(落款は自分の名前を入れてください。)

ホー！作品
各部総評

NO. 585

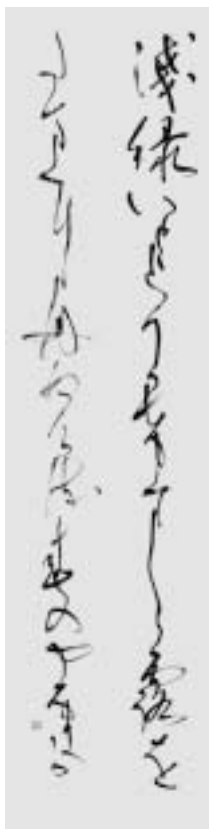
漢字部 師範 豊澤 蒼峰

落ち着いた慈味溢れる隸書表現で、潤濁の変化が動きと表情を醸し出している。安定した作である。
◎漢字部総評 参考例の表現が多く見られたが基本用筆の不安定作も散見。他の書体も含め基礎基本をしっかりと身につけたい。(大雲評)



かな条幅部 準師範 松本 泰子

冴えたタッチでリズムに乗り小気味よく流れる。確かな用筆が揺るぎのない点画を生み出したもの。◎かな条幅部総評 大字がなほ、特に歌意を大切に書きたい。春が渡るでは季節感も出ません。名前は行との調和が大切。(洋子評)



前衛書部 特選 蒔苗 真紀

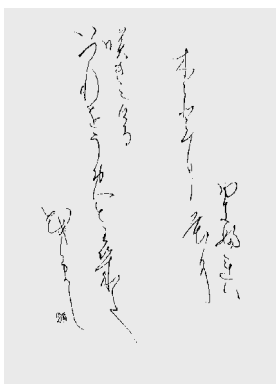
面線の滑らかな動きとパンチのきいた潤筆との融合が、美しき躍動感を生み出した作品。
◎前衛書部総評 他部より出品ありうれしく拝見。個性豊かで伸々した作が多く見られた。(蓮紅評)



漢字条幅部 師範 熊谷 青山

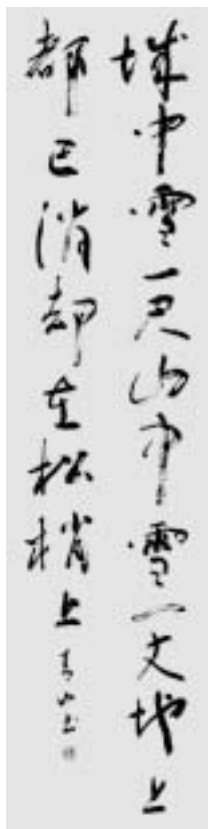
字画を簡素にして自分の呼吸で一貫する。軽快なリズムとタッチで味わいのある作となった。

かな部 師範 香川 富子
シャープな線でゆったりとした構成を表現して古典の香が漂う。独自の世界を創った力量は見事。
◎かな部総評 全てを十分理解しながら、字粒の萎縮した作が目立ち残念。空白は余白美には繋がないので均衡を考えて。(明子評)

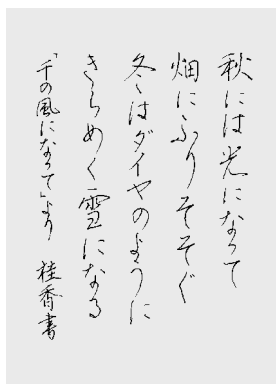


ペン字部 師範 佐藤 桂香

流麗なタッチで瀟洒な作風が目を引きました。大小、太細、緩急の変化、余白も冴えて澄明な作品。
◎ペン字部総評 滲の強い紙は線が鈍重に見えます。筆路明快な方が線も明るく見えます。上級者は用具の吟味を望みます。(澄神評)



◎漢字条幅部総評 筆力第一は申すまでもないが、それぞれの段階で、自分のテーマに従って表現方法を古典から学びたい。(春洋評)



秋には光になつて

烟にふりそそぐ
冬はダイヤのようになつて
きらめく雪になる
千の風になつてより 桂香書

特別研究部
優秀作品(特選)



60×180cm

漢字

(玄穹) 千葉紅雪

「放輪寶」

◆体の動きを上手に利用して線の表現に変化をつけた。筆先の力を紙から離れる前にすっと抜かず、余白にその力を抜いているのが魅力的。(倫子評)

◆ダイナミックに大字三文字を横構成する。真正面から向き合う姿勢に好感。濃墨のねばりが紙に対しやや上すべりした感あり。更に工夫を。(大雲評)

◆性差はないのかもしれないが、女性らしからぬ見事な筆力、気骨に息をのむ。前衛書を扱う作家の、根底をつかさどる学書の深さに敬意。(洋子評)

◆筆力第一という。紙や大きさや墨に敗けない力と造形の鍛練は何時までも大切である。この期間が長い程、大成する。正攻法りっぱ。(春洋評)

千葉紅雪書

浅見由紀子

前衛書

(行徳)

「未来へ」



浅見由紀子書

70×148cm

◆濃墨の厚味ある線を核として、淡墨細線からませる。複雑、微妙な動きが妖しく魅きつける。もう少し整理してもよかったか。(大雲評)

◆濃墨の踊るような動きとやわらかさが明るい。右辺の淡墨は少し多すぎるようにも思われるが、情の強い線質で余白を支配する。(春洋評)

◆淡墨の細線がやや遊びめいて気になるが、濃墨の強烈なタッチと絡ませて不可思議な空間を生む。強い意志を感じさせる野太い線が印象的。(洋子評)

◆書いているご本人はもっと淡墨の線を表現しなかったのでは。見る側からはもう少し整理した方がすっきりして一つの流れを感じられる。(倫子評)

総評

今月は90点(漢22、か16、現30、前22)の出品がありました。出品者に常連の名が多く見られます。その方々の作品が毎月進歩していることに敬意を表します。バンクローバーで開催されている冬季オリンピックで、素晴らしいパフォーマンスが報道され、毎日感動します。本番で最高の技が出せるのは、日頃の基礎トレーニングと、地道な練習の繰り返しの成果です。体が覚え込み無心で動作するまで繰り返すことで、成功の精度が高まるのでしよう。書の作品制作も一緒です。地道な訓練の繰り返し、体が覚えこむまで行なう事で技術の精度が高まります。(萬城)

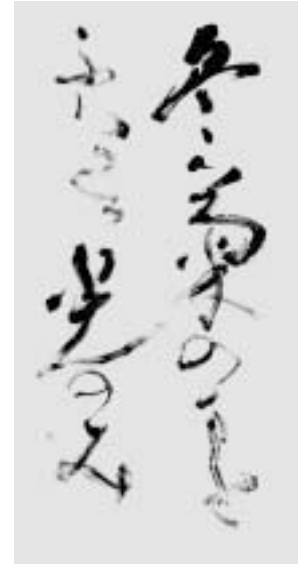
〈特選候補者〉

漢	声香	米倉	貴香
一弦	木村	由香	
森地	東平	初美	
光昭	嶋	清子	
書泉	勝山	雲卿	
卯月	須田	空華	
大雲	神谷	青山	
游水	荒川	青木	
蒼原	熊谷	藤象	
眩耀	佐々木	彩紅	
もく	西川	内寿江	
蓮紅	浅野	初江	
秀水	坂井		

かな (卯月)

前田まさ美

「冬菊の…」



前田まさ美書

138×70cm

57×176cm

現代詩文書 (翠柳) 加藤紫翠

「硝子窓の外の面…」



加藤紫翠書

◆超濃墨だが断裁のリズムのため明るく、軽快に空を切る。大小の塊にした構成は現詩ではよく見かけるが、自然にまとめ韻が高い (洋子評)

◆濃墨を紙にのせるように書いたのでしようか。うすい紙に美しく墨の黒を乗せたようだが線に力強さがあつて、全体美しく表現されている。(倫子評)

◆濃墨のねばりをやや柔らかな紙質に生かし鮮明な作である。隸意を込めた横展開は安定し、前半の広がりを後半の中細字でうまく収束させた。(大雲評)

◆やわらかい紙を歯切れよいリズムで切つてゆく線の明るさがよい。後半になる程よく余韻を残して終わる。書き出しの「硝」がやや重い。(春洋評)

◆荒々しいまでの気迫で感情をぶつつける、「かな」らしくない筆触が、新しい「かな」を発見するかも知れないと期待して拝見している。(春洋評)

◆体の動きと共に筆を動かし墨つぎも所を得たといった感じ……。筆が少々荒れたように見えるがそこが一つの変化として表現されたのか。(倫子評)

漢字

(大雲) 長島僊雨

「雪裏江…」



長島僊雨書

134×69cm

◆淀みなく巧みに筆を自分の手先の様になど動かす力に表現力が発揮されている。濃墨でなく淡墨で滲みのある作品も私には大きな楽しみです。(倫子評)

◆劉石庵のようなどっかりと坐った「雪」から始まって坦々と書き進めて人柄を感じさせる。文字造形ほか問題はあろうが人間性の表現賛成。(春洋評)

◆長鋒柔毫筆を使用か。複雑にからみあう破筆が動きを与え、たっぷりした潤筆部と共に味わいを醸し出す。もう少し大小の変化があれば。(大雲評)

◆情感溢れる行草書に、新鮮さが宿る。巧みすぎて少々流れ過ぎるようにも思うが、しばらく自分のリズムで各分野押し通すのも一案かと……。 (洋子評)

漢字研究部
(祭姪文稿)

選評 村野大仙

今月のホープ作品



佐藤 糸乃

漢字研究部 特選 佐藤 糸乃
紙いっぱいの表現で気力充実。空間を見事に美しく支配している。窮屈さが無く少ない白が光り輝いて明るい。筆の弾力を生かし、自然で丸みある力強い線には、燃える心情が秘められている様で深い感銘を受けた。

◎漢字研究部総評

古典の学書を大切にされておられる方々には馴染み深い課題かと思いますが一見しての

感想。第一に少々見方、書き方が粗雑過ぎる様に思えます。もっと丁寧に学書して欲しい。第二に筆力の乏しさを強く感じました。筆力は書の重要な条件ですが、力をつけるにはかなりの努力が必要です。しかしそれ以前にはそれが念頭に無く無視して形ばかり習ったりしてはいないかと危惧を抱きました。どうぞ「筆力」とは……の認識を高め、その努力をしっかりとなさってください。

同國 茂真

銀青 光祿

蒲州 刺史

維札元 元年歲

蒲州 刺史

楊牧 同國

刺史上 軒車

元年 歲次

維札元 之年

統軍 事蒲

維札元元年歲次 戊戌外自庚子潤 三月甲申外第一三村 銀青光祿大夫

刺史上 軒車

蒲州 刺史

銀青 光祿

蒲州 刺史

清 酌庶

刺史上 軒車

銀青 光祿

丹楊牧 同國

蒲州 刺史

銀青 光祿

銀青 光祿

蒲州 刺史

第十三 州銀

谷 皓悦匡
健 翠 子子
惠 蓉子子

四智太光蒼惠
草子無燁香美

青蕙紫瑞紅由
山芳仙兆雅香

美聲谷桂千湖
佐佐涼苑子舟

